鉄道OB新聞

発行所：日本鉄道OB会連合会本部
発行人：梅原康義
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-9-1
電話 03-3211-2925
FAX 03-3214-4212
振替口座 東京00160-8-776442

許可なく記事等の無断転載を禁じます

●お知らせ
1月号は12月16日より順次発送する計画です。
ホームページ：http://tetsudo-ob-honbu.com/

第21回（2025年度）
連合会全国大会を開催

日本鉄道ＯＢ会連合会は10月16日(木)12時から、第21回（２０２５年度）全国大会を東京都内のホテルで開催した。

大会には田浦芳孝会長をはじめ連合会評議員、役員、ＯＢ会代表者並びに特別功労章・インストラクター表彰受賞者のほか、来賓など約80名が出席された。

大会の冒頭、現会員数6万3252名（準会員含む）、1年間の物故者２１９０名を報告の後、物故者の冥福を祈り黙祷を捧げ、次の式次第により進められた。

1　会長あいさつ
2　来賓及び評議員の紹介
3　特別功労章及びインストラクターの表彰授与
4　懇親会

田浦芳孝会長あいさつ

皆様こんにちは。7月に会長の大役を仰せつかった田浦でございます。微力ではありますが、頑張って参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。本日はご多用の中、お越しいただいたご来賓・評議員の皆様、本当にありがとうございます。また、鉄道ＯＢ会関係の役員・受賞者の皆様にも多数ご出席いただきました。心より感謝申し上げます。

就任して3ケ月ほどになりますが、数年前から3～4年間に渡り、日本中・世界中を苦しめたコロナ禍について、改めて思いを致しております。あらゆる経済主体・組織体が恐怖と混乱の中で大変な影響を被り、ほぼ全ての経済活動・社会活動が休止や停滞に追い込まれました。ＪＲ各社の被害・損失も極めて甚大でした。そして、癒しがたい大きな痛みを経験したのは、それら経済主体等にとどまらず、例えば私ども鉄道ＯＢ会も同様でした。コロナ禍の期間中、私は基本的にＯＢ会活動に参画しておりませんでしたが、関係の方々のご苦労たるや想像に難くありません。活動の大半が実施出来ず、この全国大会の中止もまさにその典型的な事例と言えます。

そういう中にあって、日本中のＯＢ会組織において、必要最低限の活動を歯を食いしばって繋ぎ、そして、いつか終息するその時のために、必要な準備を怠りなく進めてこられました。それらが功を奏し、昨年あたりからは活動がほぼ旧に復し、今回の第21回全国大会も概ね従来並みに開催することができたと認識しています。

この間、何ら自己ＰＲすることもなく黙々と地道な活動を継続されてきたＯＢ会関係の組織・役員・会員の皆様方に心より敬意を表する次第です。本日は、この後、そういう事情下にあって、顕著なご貢献のあった方々に、誠にささやかながら、気持ちをお伝えしたいと思っております。

さて、昨今、ＪＲ各社の創業からの年月が国鉄を超えたことが話題となりました。国鉄は、昭和24年6月に発足し、昭和62年4月の国鉄改革によりＪＲ各社が誕生するまで存続したので、その歴史は37年10ケ月に及びます。その後、今日まで、ＪＲ各社は、国鉄の年齢を越える38年半の歴史を紡いで参りました。国鉄時代を知る立場として、感極まるものがあります。

思うに、ＪＲ各社にとってこの38年半は、安穏な日々どころではなく、激変する経済社会環境を見据え、生き残りを懸けて、国鉄改革にも匹敵するような第2・第3の改革を実践する、必死の経営努力継続の日々であったと拝察いたします。

一方、私ども鉄道ＯＢ会組織は、国鉄誕生4年後の昭和28年に発足し、名称こそ何度か変わりましたが、国鉄時代の34年間、様々な期待に応え続けた輝かしい歴史を有する組織であることは間違いありません。

現在の我が鉄道ＯＢ会、会社と同様、38年半が経過しました。そして、皆様ご存じのとおり、連合会本部と、各旅客会社エリアのブロックごとにそれぞれのＯＢ会を位置付ける現体制に移行してからも既に20年が経過しました。

そういう節目の時期を迎え、我が鉄道ＯＢ会はいかにあるべきでしょうか。先程も触れましたが、ＪＲ各社においては、激変する経済・社会環境に適応すべく必死の努力が不断に継続されています。経営体と同列に論ずべきではありませんが、我々ＯＢ会としても、どんな時代でも変わらない意義や価値機軸の下、守り抜くべきものを確認した上で、時代に適合し修正すべきことにも真剣に向き合う必要性を感じています。

私が兼務している東日本鉄道ＯＢ会では、今後の方向性について議論を開始することにしました。今後、ＯＢ会として、単に同じことを繰り返すばかりでなく、死守すべきものは何か、変化に対応し変えるべきものは何か、こうした議論が始まろうとしています。

話は変わりますが、ＯＢ会関係で最大の関心事は、言うまでもなく会員数の減少です。入会されることが楽しく充実した日々をもたらすことを確信するが故に、今後も、資格のある方々への勧誘を強力に進めて参りますが、誠に残念ながら、各ＪＲ及びそのグループ会社等の社員数・年齢構成、更には今後の制度改正などを俯瞰する時、新しく仲間となられる予備軍総数の見通しは楽観を許さず、従って以前のような会員規模の維持は到底望むべくもなく、将来の会員数減少を冷静に覚悟しなければなりません。

しかし、私はそれを嘆く必要はないと考えます。そもそも我が鉄道ＯＢ会は、多くの現会員の皆様が納得されているとおり、自らが実践してきた鉄道人生の価値を正しく認識し仲間とともにそれを語り合い、さらにはその志を受け継ぐ現役・後輩諸君たちを強力に応援する、そういう決して風化しない価値観に裏打ちされた行動を生き甲斐として、人生最後の日まで誇り高く行動し続ける人間集団、これこそがまさに鉄道ＯＢ会の真髄、すなわち存在意義と思うからです。

今後、規模の縮小があるとしても、この誇るべき組織体の伝統を守り抜く、それは狭隘な頑迷固陋を意味するのではなく、新時代に適合し変えるべきは変える柔軟性をも併せ持つ集団であり続けたい。

このような誇りに満ちた鉄道ＯＢ会を、皆様と議論を重ねながら、更に高みを目指し続けることをお誓い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

特別功労章受章者

◇北海道鉄道ＯＢ会
丹羽一彦（遠軽）

◇東日本鉄道ＯＢ会
成田俊二（秋田）、小野寺行（北宮城）、中村洋一（五泉）、田村勲（高崎）、飯田五郎（水戸）、根岸秋夫（船橋）、酒井捨治（本部）、井口茂男（電気）、宮野邦男（運輸）、宮澤弘也（塩尻）

◇東海鉄道ＯＢ会
大橋正博（焼津）、箕浦宗雄（稲沢）

◇西日本鉄道ＯＢ会
菊川弘（京都）、粟原清重（伊賀上野）、三木強（播但）、南谷茂（益田）、粟井茂（西岡山）、綾部一正（本部）

◇四国鉄道ＯＢ会
岡村正一（香川）

◇九州鉄道ＯＢ会
中原健吉（鳥栖）、高木博昭（小倉）、安井俊幸（大分西部）、瀬戸口勝巳（鹿児島）

インストラクター表彰受賞者

◇北海道鉄道ＯＢ会
笹原初子・パッチワーク（北見）

◇東日本鉄道ＯＢ会
佐藤徳代・鉄道模型（水沢）、加賀谷哲夫・マージャン（秋田）、松澤良治・観光案内（ガイド）（新庄）、齋藤光雄・料理（新潟）、堀口敏夫・ソフトボール審判員（高崎北）、佐藤修・バドミントン（川崎）、増子幸夫・健康体操（立川）、佐川富吉・絵画全般（南彩）、降駒光磨・尺八（松本）

◇東海鉄道ＯＢ会
西山量也・マジック（清水）、中嶋武秀・水泳（名古屋工場）

◇西日本鉄道ＯＢ会
山西勉・登山（神戸）、成相幸雄・グラウンドゴルフ（米子）、西村稔・グラウンドゴルフ（米子）

◇四国鉄道ＯＢ会
加藤圭哉・ミニSL（香川）

◇九州鉄道ＯＢ会
田中康男・空手道（小倉工場）

秋の叙勲

令和7年秋の叙勲受章者が発表され、鉄道ＯＢ会関係者からは次の方が栄誉に輝きました。
（敬称略・順不同）

◆瑞宝単光章

石井　公男（71）　元・東日本旅客鉄道㈱　八王子支社甲府運輸区区長
臺　　純一（74）　元・東日本旅客鉄道㈱　東京支社御徒町駅駅長
小川　芳弘（66）　元・四国旅客鉄道㈱　阿波池田駅長
面田　哲也（66）　元・四国旅客鉄道㈱　徳島保線区助役
谷口　和己（69）　元・九州旅客鉄道㈱　小倉駅長
真子　　誠（70）　元・九州旅客鉄道㈱　大牟田保線区長

鉄道弘済会と鉄道ＯＢ会

連合会本部

鉄道弘済会は、1932（昭和7）年、当時危険だった鉄道業務に従事して事故に遭い、不幸にも殉職した職員の遺族や、身体に障害を負って退職を余儀なくされた職員等を救済・援護するための財団法人として、鉄道省の片岡謌郎、堀木鎌三、高橋定一各氏らの尽力により設立されました。

1987（昭和62）年には、国鉄の分割民営化にあわせ、これまで「ｋｉｏｓｋ」ブランドで多くの利用者に親しまれてきた鉄道弘済会直営の売店事業等の収益事業を分離したのち、2013（平成25）年10月には公益財団法人に移行して、「福祉の鉄道弘済会」を目指し新たにスタートを切っています。

一方、鉄道ＯＢ会は、1953（昭和28）年に国鉄ＯＢ同志会として発足し、その後国鉄ＯＢ会に改称しました。さらに、1987（昭和62）年に国鉄の民営分割化にあわせ日本鉄道ＯＢ会に改称しましたが、2005（平成17）年には旅客鉄道会社の区域により6つの「鉄道ＯＢ会」と「連合会本部」で組織改編を行い、今日に至っています。

鉄道弘済会は、国鉄に様々な法律上の制約があったことから、それを補完する役割を担ってきました。そうした経緯の中で、日本鉄道ＯＢ会と深いかかわりがあり、現在でも連合会本部は鉄道弘済会より多大なるご支援をいただいております。

折しも、12月3日から12月9日までの1週間は「障害者週間」になります。

鉄道弘済会は様々な障害者に対する公益事業を行っていますが、今回は、その中の「義肢装具サポートセンター」を紹介いたします。

同センターは、鉄道弘済会の設立の目的・歴史から切断障害者に対する義手義足の製作が他の製作会社に比べて多いことが特色であり、また、12床の有床診療所を併設しており、義足歩行の獲得に特化したリハビリテーションを提供していますが、このように義肢製作とリハビリテーションを一貫して提供する施設として、民間では国内唯一と言われているそうです。

同センター義肢装具研究室長で義肢装具士の臼井二美男さんは、第9回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を受賞した「現代の名工」でもあります。

臼井氏自身も長年にわたり障害者スポーツの普及に貢献してきましたが、現在では法人としての「鉄道弘済会」も、スポーツ用義足の無償貸与や自治体主催イベントでの義足体験、学校等に出向いての出張授業などを行っておられます。

鉄道弘済会は「今後も同分野のトップランナーであり続けるために、技術の向上に努め、利用者一人ひとりに寄り添う質の高いサービスを提供するとともに、利用者の多様なニーズに応えられる人材を育成していく。」としているほか、「広く情報を発信し、障害者に対する理解促進の活動や障害者スポーツのすそ野を広げる取組を行い、一人でも多くの方が自分らしく安心して生きることができる共生社会の実現を目指す。」と今後を展望しておられます。

「鉄道弘済会」の取り組みと「鉄道ＯＢ会」の深いつながりについて紹介をさせていただきました。

大阪・関西万博が閉幕

ＪＲ西日本がファイナルイベント　一般来場者数は累計2500万人超

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が10月13日、184日間の会期を終えて閉幕した。一般来場者数は累計で2500万人を超え、最終日も大いににぎわいを見せた。同日はＪＲ西日本のファイナルイベント「ＪＲ西日本グループ　ｐｒｅｓｅｎｔｓ　ありがとうと旅立ちの祭典～Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ　ｆｏｒ　ａｌｌ…～」が万博会場内ＥＸＰＯアリーナ「Ｍａｔｓｕｒｉ」で開催され、万博のフィナーレを飾った。

同イベントは、来場者や万博を支えてきたスタッフに感謝を伝え、閉幕後の新たな旅立ちを応援しようと企画。2025年日本国際博覧会協会が共催、大阪市高速電気軌道（大阪メトロ）が特別協賛した。

イベントは3部構成で行われ、第1部では「美しい日本の文化・伝統によるおもてなし」として、ＪＡＰＡＮ　ＣＲＡＦＴ　ＳＡＫＥ　ＣＯＭＰＡＮＹプロデュースの「ＣＲＡＦＴ　ＳＡＫＥ　ＤＡＹ　2025　ｉｎ　ＯＳＡＫＡ」を実施。全国から厳選された6蔵（信州亀齢、東洋美人、みむろ杉、寶劔、作、あべ）の日本酒が紹介され、ＪＲ西日本の倉坂昇治社長やＩＣＯＣＡキャラクター「カモノハシのイコちゃん」が登壇して、「感謝の鏡割り」が行われた。

また、会期中に万博会場で公演された国内外の「まつり」が再演され、岸和田だんじり祭や徳島阿波おどり、石見神楽などが登場。167の国・地域・国際機関のフラッグが一堂に会して「フラッグセレモニー」も行われ、場内はさらに国際色豊かな雰囲気に包まれた。

第2部「ＥＸＰＯ　Ｔｈａｎｋｓ　ＬＩＶＥ」では、万博に携わったアーティストとして、コブクロやアバンギャルディなど計5組が出演。音楽を通じて来場者に「感謝」を伝え、会場は大きな盛り上がりを見せた。

第3部は「旅立ちのステージ」と題し、万博の招致から会期中の様子を映像で振り返った後、1970年大阪万博のために製造された「万博ピアノ」を用いてピアニストによる演奏が披露された。最後に京都鉄道博物館（京都市）から運ばれた「旅立ちの鐘」が、同社近畿統括本部社員らにより打鐘され、新たな旅の始まりを告げた。

交通新聞 電子版 もあります！

パソコンで！
タブレットで！
スマホで！

◎多彩な検索方法！
キーワード・掲載日・ジャンル別など

◎過去記事の閲覧ができる！
2015年1月1日付以降を収録

◎当日付の新聞がより早く、確実に読める！
遅配の心配無用

◎記事写真はカラーで掲載！
よりリアルに読める

通常の年間購読料28,284円（税込）のところ
年間購読料（ＯＢ会員特別価格）
13,200円（税込）
・ＯＢ会員であることをお申し出ください。
・お申し込み期限は2026年3月31日まで。

交通新聞　電子版　で　検索

【お問い合わせ・お申し込み】
交通新聞ヘルプデスク　TEL.03-6831-6570

2024年度OB会員数関係の各種ランキング（その①）

日本鉄道ＯＢ会連合会

2024年度末（2025年3月31日現在）OB会員数実績に基づくランキングを2回に分けて掲載します。第1回の本号では会員数や入会者数の多い10ヶ所について発表します。次号(1月号)は、インストラクター関係のランキングを掲載する予定です。

1　会員数の多い地方本部、支部のベスト10

①地方本部ベスト10

順位	地本名	会員数	備考
1	仙　台	3,146	
2	門　司	2,755	
3	新　潟	2,632	
4	東　京	2,602	
5	金　沢	2,098	
6	広　島	2,095	
7	大　阪	2,042	
8	盛　岡	1,734	前年圏外
9	岡　山	1,563	前年8位
10	大　分	1,538	前年9位
	米　子	1,538	前年圏外

（注）8位の盛岡は、青森県地本を統合したため増加

②支部ベスト10

順位	支部名	会員数	備考
1	鹿児島	918	
2	仙　台	851	前年3位
3	香　川	843	前年2位
4	米　子	791	
5	盛　岡	725	
6	熊　本	529	
7	秋　田	513	
8	新　津	489	前年圏外
9	福　島	485	前年8位
10	博　多	462	前年9位

2　2024年度の1年間に、入会者数（転入者除く）の多かった地方本部、支部のベスト10

①地方本部ベスト10

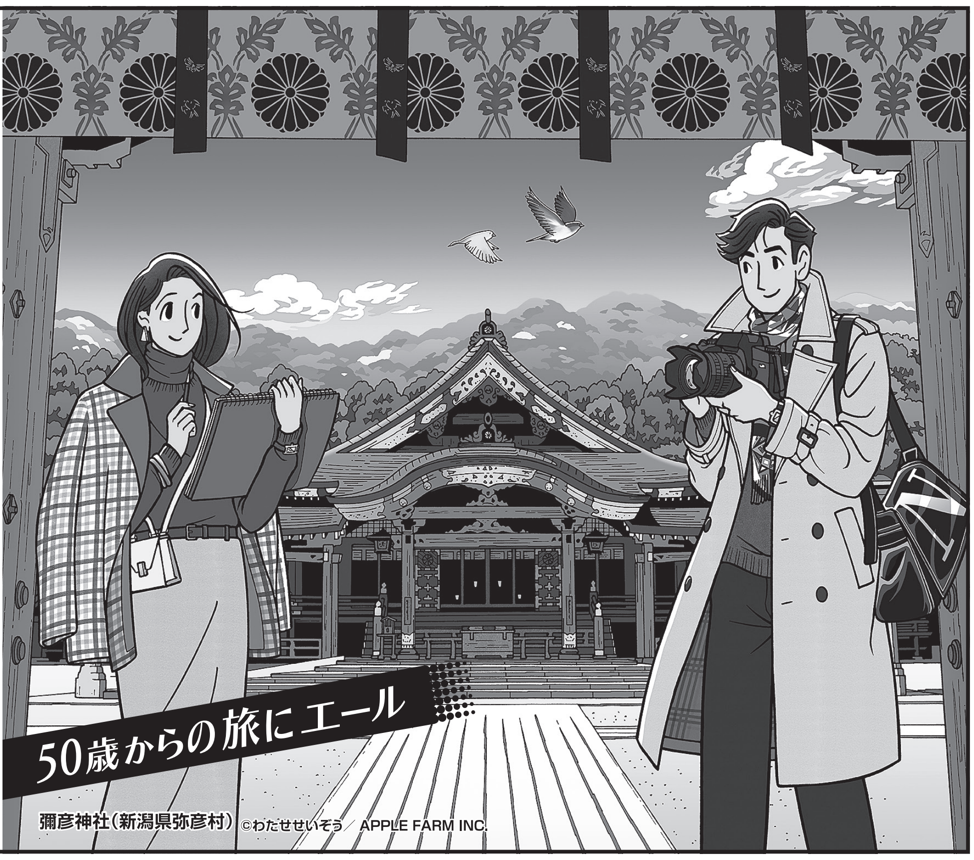
順位	地本名	会員数	備考
1	東　京	177	
2	広　島	78	前年4位
3	仙　台	75	前年1位
4	門　司	73	前年5位
5	大　阪	70	前年3位
6	米　子	56	前年圏外
7	福知山	54	前年圏外
8	岡　山	34	前年6位
9	金　沢	32	前年10位
	新　潟	32	前年圏外
	千　葉	32	前年圏外

②支部ベスト10

順位	支部名	会員数
1	仙　台	26
2	ジェイアール東日本都市開発	25
3	米　子	23
4	広島中	21
5	京　都	18
6	新　津	17
	鹿児島	17
8	福知山	16
9	秋　田	15
	福　島	15

（注）ジェイアール東日本都市開発は、2024年度に新規に設立した支部

JR東日本　大人の休日倶楽部　20th Anniversary
会員限定
大人の休日倶楽部パス
利用期間 2025.11/27(木)～12/9(火)
の連続する5日間乗り放題
東日本
普通車 通常 19,800円
えきねっとなら1,000円おトク!
18,800円
東日本・北海道
普通車 通常 27,740円
えきねっとなら1,000円おトク!
26,740円
えきねっと限定でグリーン車用も発売!
ご利用開始日の1ヵ月前から前日までに、発売箇所の営業時間内にお求めください



彌彦神社（新潟県弥彦村）©わたせせいぞう／APPLE FARM INC.

春秋

鉄道精神

東海鉄道ＯＢ会副会長兼静岡地方本部長　長谷川　泰

早いもので今年、昭和62年に発足したＪＲ各社が38年目を迎え、いまだ鮮烈な記憶のある国鉄改革・分割民営化から、もうそれだけの年月が流れたかと感慨深く思います。また、我々鉄道ＯＢ会は発足以来72年目。昭和28年発足時の第一目的が終戦後の会員消息調査であったことを思うと、現在の鉄道ＯＢ会を築き上げ続けてこられた先輩諸氏に深く敬意を表します。

平成30年に静岡地方本部の本部長を拝命して以来、会員の減少に伴う支部の統合、廃止など厳しいことも沢山ありましたが、それを超えて多くの会員と親睦し語り合い、会員の健康維持、駅やＳＬ清掃など地域への社会貢献、ＪＲ支援を使命とする活動に、鉄道ＯＢ会の存在意義を常に感じてきました。また、それとともに感じたことが一つあります。それは、鉄道ＯＢ会は鉄道という仕事に誇りを持ち、同じ釜の飯を食べた仲間の集まりであることに加えて、会員を使命で結びつけているのは、世のため人のためをモットーとする鉄道精神であるということです。

小生は祖父も父も国鉄職員の鉄道三代目です。昭和54年に国鉄入社、初任地は静岡鉄道管理局で沼津機関区と局運転部に通算8年間在籍した後、昭和62年分割民営化で発足したＪＲ東海に入社。新設された総合企画本部や秘書室といった本社部門が長く、最後に名古屋駅長を拝命、28年間勤務しました。国鉄での在籍期間は、昭和50年のスト権スト後であり、赤字や組合問題、職場規律問題をマスコミに指摘された時期でしたが、国鉄一家と呼ばれていた職員は真面目で団結力も強く、特に年配の社員は国の輸送を担うプライドと仕事に厳格な鉄道員気質を持っていました。

しかし、赤字や労働問題もあり経営破綻、国鉄改革法が昭和61年12月に成立しました。地方の管理局にいた我々には突然の決定で、それから翌年4月に亘る、国鉄からＪＲ7社への分割民営化作業が始まりました。非現業組織が新会社への移行作業に没頭せざるを得ない中、心配された全国の列車運行が毎日ダイヤ通り実施され、4月1日ＪＲ各社が無事発足したのは、この重要な時期を無事故で完遂させた現業組織の底力でした。

そして民営化初年度が始まりましたが、7社に分割された各社の経営が予想通りの成績を残せるかは誰にも解りませんでした。また、小生など地方の管理局から本社に配属された社員は当初右も左も解らず戦力にならず、公私ともに新しい環境の中で毎日が無我夢中でした。

しかし、国鉄を退職し新会社に採用され、異なる地域から集まった社員達が一緒に助け合いながら働き、名実ともにＪＲ東海の社員となっていったのは、新会社を必ず成功させなければならない、という強い気持ちがあったからだと思います。本当に懐かしく、ＪＲグループが長い間色々な苦難を乗り越えてここまで来たことは本当に感無量の思いです。

翻って、国鉄には「鉄道精神の歌」という社歌がありました。詩人・北原白秋氏による「轟け鉄輪、我が此の精神」で始まる力強い歌詞と、作曲家・山田耕筰氏による鉄輪の響きをイメージした勇壮な曲は、長い間社員に文字通り鉄道精神を与えてくれた名曲でありました。私事ですが、小生の父は昭和20年、終戦の年に国鉄に奉職し昭和56年に静岡駅長を最後に退職、鉄道ＯＢ会に長くお世話になり、去る令和3年93歳で亡くなりました。亡くなる直前、父は私に「俺が死んだら、鉄道精神の歌と旧制静岡中学の校歌をテープで葬儀場に流してくれ。それから通学・通勤で70年世話になった富士川駅前を霊柩車で1周してくれ。頼む。」と言い、私は父の葬儀でそれを施主として全て実行しました。参列された鉄道関係者は、皆この歌を聴いて父を偲んでくれました。

最後になりますが、鉄道ＯＢ会は鉄道精神を繋ぐ礎だと思います。平均80歳にもなる会員の鉄道経験は得難いものであり、何より皆ＪＲを応援しております。今後約10年は、入会者が減少する厳しい時代となりますが、これからも会の使命の下、会員が元気で過ごせるような活動を続け、鉄道ＯＢ会を永遠に存続させられるよう頑張っていきたいと思います。

末筆ながらそのためにも皆様方のご健勝を心より祈念しております。

インストラクター紹介

地域のインストラクターとして活躍

九州鉄道ＯＢ会門司地本小倉工場支部　田中　康男

（右端が田中氏）

田中康男氏は、門司地方本部インスラクター（小倉工場支部会員）として、長年地域（福岡県築上町）で青少年を対象として空手を通じて活躍中です。

田中康男氏は現在師範として、令和6年5月、養忍館椎田道場開設50周年を迎えました。この間、継続して400名を超える青少年の指導育成を担いました。

「礼にはじまり、礼に終わる」空手でのこの指導が、青少年にとっていかに大きな役割を果たしているかは周知の事実であり、父兄から信頼を得て現在も続いていることはその証左であります。

「生徒はさぼっても先生はさぼれない」との使命感にあふれ、裏打ちされた強固な精神力で指導を行い、また、恩師や同僚の師範の他界後も面倒を一手に引き受けて、近隣の苅田町や豊津町の道場の巡回指導を欠かさない努力をしています。

そのほか、平成19年に「築上町地域総合型スポーツクラブ」を地域の仲間と設立し、中心の役員として運営にあたり、この間、青少年から高齢者まで楽しめるグラウンドゴルフや囲碁将棋など、幅広くスポーツと文化活動を老若男女問わず参加を募り、「明るい元気のよい町づくり」を展開し、現在18年間継続しています。

このほかにも、地域消防団活動をＪＲ九州現職時代から続け、33年の長きにわたる活動を認められ、令和3年11月に秋の叙勲「瑞宝単光章」を授与されています。

田中康男氏は、長年地域社会でスポーツをはじめとする多方面で「八面六臂」の働きをしています。氏のこれまでの日々の努力に敬意を払うとともに、今後の益々の精進と活躍を祈念します。

民芸・工芸（パッチワーク）のインストラクターとして

北海道鉄道ＯＢ会北見支部　笹原　初子

私は今年92歳、北海道北見市に住んでいます。夫（忠夫）は30年前に69歳で亡くなり一人暮らしですが、息子も同じ北見に住んでいるので「心強い」です。

私は小学4年生から編み物を始めるなど、子どもの頃から様々な手芸に取り組んできました。昭和53（１９７８）年に北見市内の手芸店でパッチワークの講習会がありました。参加してみると、その面白さにすっかり魅了され、以来「パッチワーク」が私の趣味になりました。キャリアは約50年近くになります。小物の手提げは約2週間、大物のベッドカバーは4ヶ月ぐらいの制作日数がかかります（写真の作品は、完成まで約2ヶ月かかりました）。

ある年、通っていた手芸店の講師が突然北見を離れることになり、私が次の講師に指名されました。悩みましたが、引き受けることとし、手芸店や市内4つのサークルで講師をしていました。市民会館で開催されている市民講座のキルト・パッチワークの講師も北見市から委嘱されて40年近く務めました。講師を辞めた後も、週1回自宅で教えていましたが、今はやめています。

令和5（２０２３）年、90歳を記念してパッチワークの個展を北見市内で開催しました。市民の皆さんはもとより、多くの生徒さん達が会場を訪れてくれました。地元紙にも大きく掲載されました。よくここまで続けてこられたと思います。素晴らしい生徒の皆さんのお陰です。こんなに幸せなことはありません。感謝です。

（右から２番目が筆者）